

# たちかわの未来の環境を語ろう! たちかわ環境 大学生・高校生ワークショップ ニュースレター

発行元 立川市環境下水道部環境対策課

立川市では現在、立川市第3次環境基本計画等の策定に向け、検討を進めています。策定にあたっては、社会情勢や市民の意識から、課題等をしっかりと把握する必要があると考えています。

また、地球温暖化がもたらす気候変動と多発する気象災害、ごみ・食品ロスの問題、生物多様性の損失や外来生物の増加などなど・・・身近な生活環境の問題から地球規模の環境問題まで、多くの問題を抱えており、立川市も様々な課題に直面しています。そんな立川市の環境をより良いものにして、将来世代を担う大学生、高校生の方々と一緒に未来へつないでいきたいという思いから、ワークショップを開催することとしました。

## <開催概要>

- 日時  
令和5年12月10日(日)  
13時から15時半
- 場所  
立川市役所内 会議室
- 参加人数  
14人

## <プログラム>

- 開会
- ワークショップについて
- グループ討論
- 全体発表
- 閉会
- 市職員・参加者の交流会 ※希望者のみ

## ● ワークショップについて

ワークショップを実施する目的や今後の流れなどについて、市より説明を行いました。ワークショップとは予定されていることを説明する説明会等とは異なり、参加者同士で考え、手を動かし、意見を交わすものであり、市はそこで出た結論を計画策定の参考にします。



## ● 本日の討議テーマと進め方について

本日の討議テーマとして設定した「環境活動への参加者を拡大するためのアイデア」について、なぜこのテーマを設定したのか、その背景を以下のような説明スライドを使って、説明を行いました。

～説明スライド(一部抜粋)～

### ● 討議テーマの背景

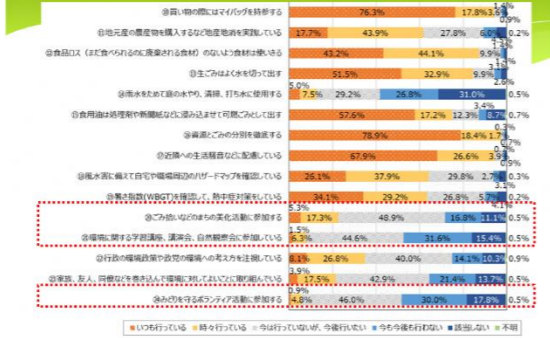
立川の環境をより良いものにしていくためには、行政だけでなく、市民や事業者の協力が不可欠

- 省エネ行動やごみの減量化や分別などの日常的な環境活動については、習慣として定着している。
- 地域ぐるみでの環境活動については、参加率が25%以下で低い。

マンパワーを必要とする環境活動や、より積極的な省エネ行動やごみ減量活動を進めていくためには、参加率の向上に向けた工夫が必要

### ● 討議テーマの背景

◆環境に関する取組状況 (立川市の環境についてのアンケート集計結果報告書より抜粋)

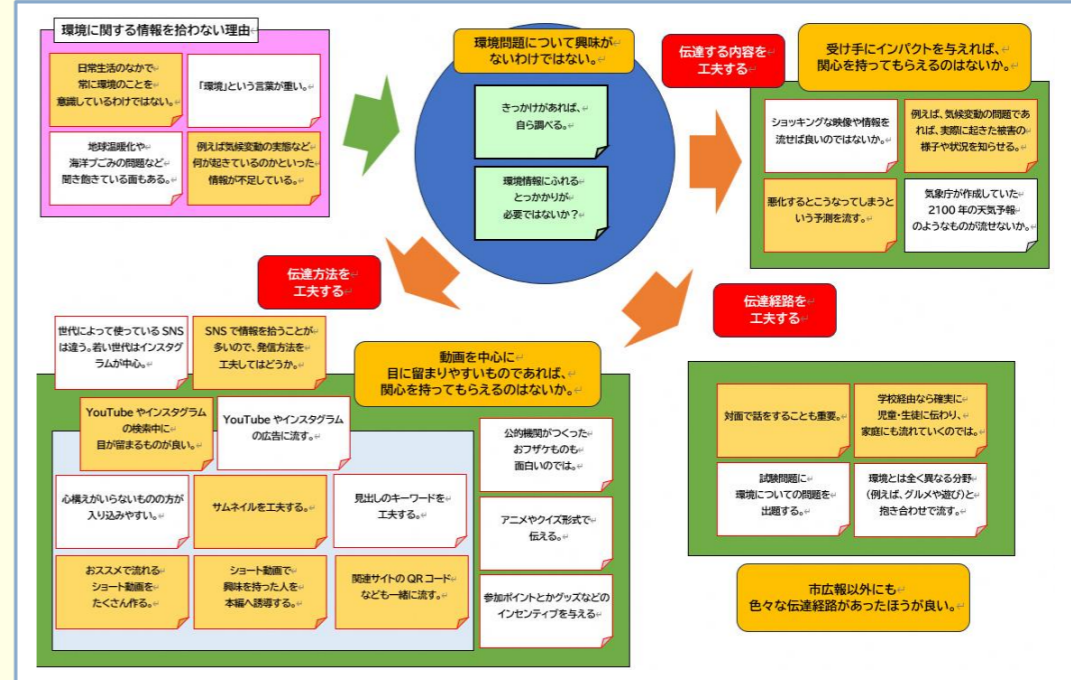


## ● グループ討論の結果 <Aグループの場合>

まずは、メンバーの自己紹介と興味のある環境分野について聞きました。その後、「なぜ環境問題について興味がわからないのか」といった視点や、「環境に関する情報を拾わない理由」について考えてもらいながら、情報を拡散させるためのアイデアを議論しました。



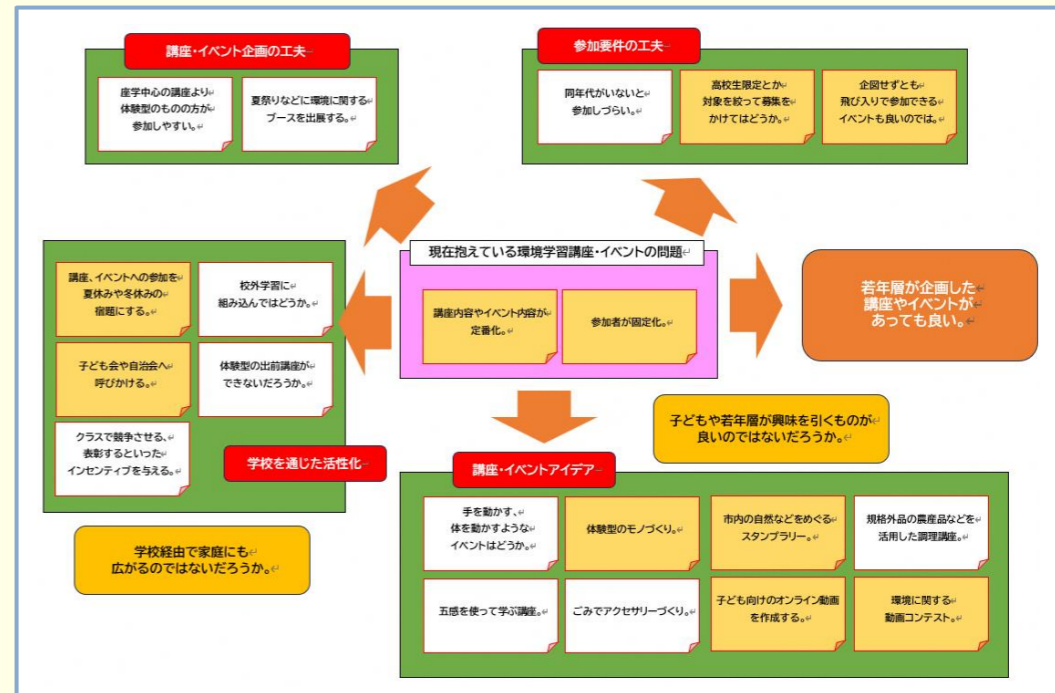
## <環境情報や環境配慮行動を拡散させるためのアイデア>



次に、環境学習講座や環境イベントが抱えている問題で、「講座内容やイベント内容が定番化」していることや、「参加者が固定化」していることについて議論しました。これに対するアイデアとして、体験型のモノづくりやスタンプラリーといった子どもや若年層が興味を引くもの良いといった意見や、学校を通じた活性化により、家庭にも広がるのではないかと意見がでてきました。



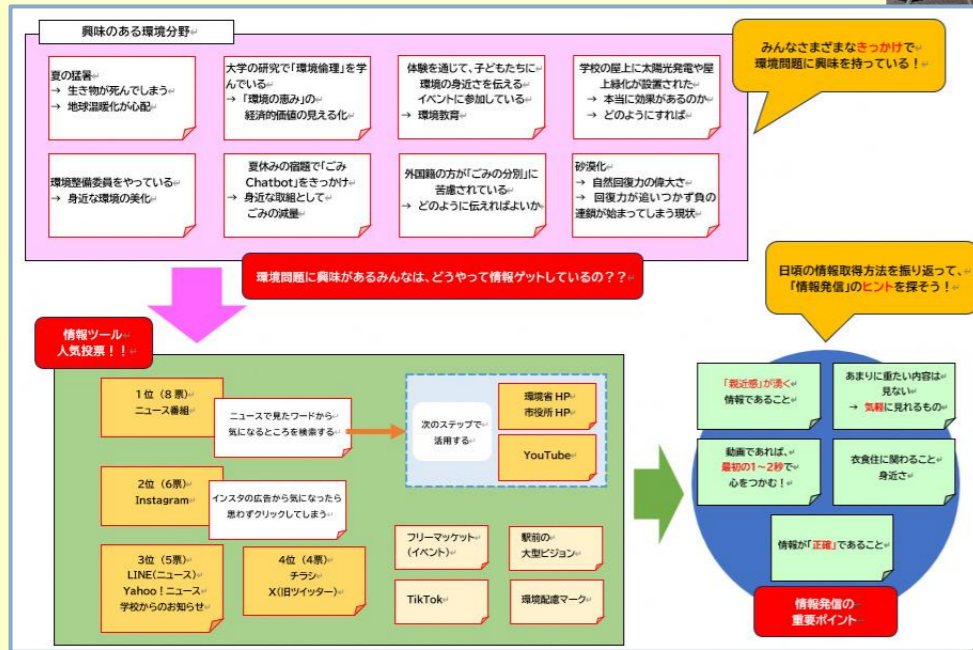
## <環境学習や環境イベントの参加率を上げるためのアイデア>



● グループ討論の結果 <Bグループの場合>

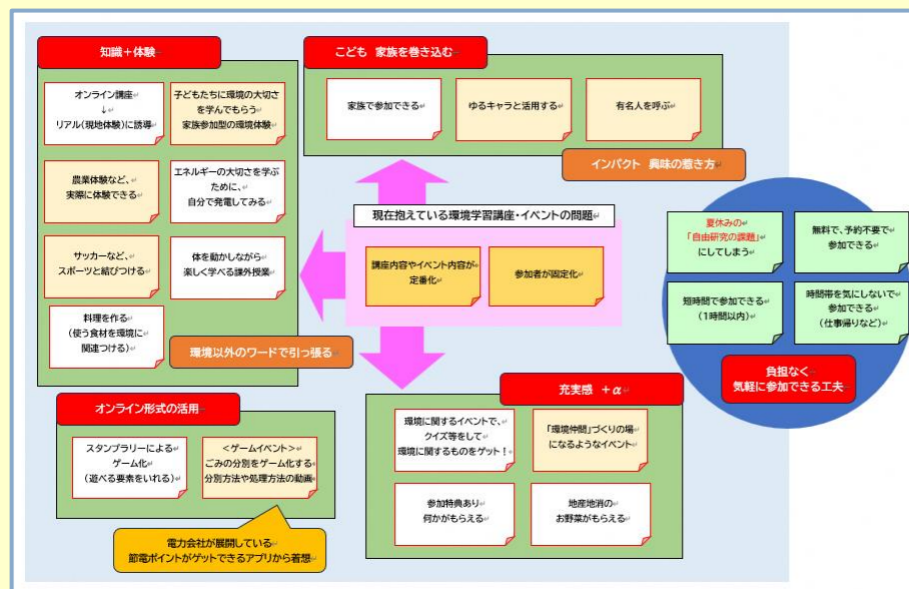
メンバーの自己紹介と興味のある環境分野について聞き、参加したみなさんの環境に対する関心の高さがうかがえました。まずは、その点に着目し、「関心の高い人はどのような経路で情報を取得するのか」を分析しながら、情報発信における重要ポイントを議論しました。

<環境に関する効果的な「情報発信」>



次に、環境イベント等が抱えている問題で、「講座内容やイベント内容が定番化」していることや、「参加者が固定化」していることについて議論しました。これに対するアイデアとして、知識と体験の両方が楽しめるイベントや、オンライン形式を活用して遊べる要素を盛り込むことなどが挙げられました。また、イベントを企画するうえで、「負担なく、気軽に参加できる工夫」が必要という声が挙げられました。

<環境学習や環境イベントの参加率を上げるためのアイデア>



● 講評 <一橋大学 山下英俊先生>

両グループともに、大きく分けて2つの議題が上がっていたと思います。

1つ目は、環境に関する情報に一般の方がどうやってアクセスすればよいかということです。参加者の方の情報収集の方法は、SNSのInstagram、LINE、Xと続いており、世代の特徴がしっかりと出ている印象でした。一方で、行政のホームページや、テレビのニュースといった古典的な情報源も活用されていることに驚きました。この結果から、行政機関等が、きちんと正確な情報を発信することの重要性を認識できました。

2つ目は、具体的なイベント等のアイデアについて、まずは身近なところから、情報を受け取ってもらわないことには始まらないという点は、みなさんの共通認識だったように思います。こういった気付きは、行政から情報発信をする際に、気をつけていかなければいけないように思いました。

また、オンライン形式の活用が良いという意見は意外でした。オンライン形式であれば、参加者側の場所の制約がないというメリットがあり、コロナ以降いろいろな手法があり、かなり取り入れやすい環境となっているように思いますので、これからのアプローチとして、オンライン開催は面白そうだと感じました。子供から家庭へといった話では、夏休み・冬休みの活用について話題にあがったかと思えます。立川市では、家庭で取り組むエコチャレンジという小学生向けの事業があり、次のステップとして、さらに何ができるかという視点で、良いヒントになるのではないかと思います。



話し足りないところがあったと思いますが、全体的に良い議論ができていたのではないかと感じました。

● アンケート結果 (一部抜粋) ※ アンケート回答者 6名

Q グループワークや進行はいかがでしたか?

- ・とてもスムーズで話し足りないってくらいに楽しかったです。でも、途中から何を話しているのかというのが少し分からなくなってしまい戸惑う部分がありました。
- ・話しづらかった。
- ・学生だけだと話が盛り上がっていかかわりなかったが、職員の方が司会役で盛り上げてくださったため、気軽に発言することができた。

Q 討議テーマの設定はいかがでしたか?

- ・もう少し何について話すという議題を定めた方が最終的なまとめが上手くまとまった気がします。もっといいアイデアが出た気がします、
- ・付箋に関しても何枚かに分けて自分の意見を書いてもらい貼るスタイルの方がその場で意見が言えない人達も参加しやすくなったのではないかと思います。
- ・情報発信だけではなく、他の問題に対する解決策といったようなテーマがあるとよりいいのではないかと思います。
- ・話の広がるとてもいいテーマであったと思います。
- ・立川市の行っている環境教育を知る機会になると共に、新しい案を考えられる機会となった。